

行政経営評価（施策評価）

ライフステージの視点 （生活と時間）	1. 生まれる・育つ	妊娠・出産から乳幼児の保育まで、親と子どもを対象とする「子育て支援」を【生まれる・育つライフステージ】に該当する分野と捉えます。
-------------------------------	-------------------	--

施策分野	目指すべき姿
1-① 子育て支援	整備された子育て環境の下で、地域に見守られながら、安心して子どもを産み育てることができるまち

■まちづくりの視点

市民の視点	地域ぐるみで子育てを応援する
行政の視点	誰もが子育てしやすい環境の整備に取り組む
協働の視点	情報に接する機会が少なく制度の活用をためらう人に配慮する

■成果指標と現状

指標名 （対象分野）	計画策定時 （基準年度）	3年後 （2021年度目標値）	5年後 （2023年度目標値）	現状 （最新）	10年後 （2028年度目標値）
① 合計特殊出生率※ （子育て支援）	1.12 （2017年）	1.16	1.18	0.79 （2024年）	1.23
② 「すくサボ※」での相談件数 （子育て支援）	2018年4月 から開始	1,400件	1,300件	1,528件 （2024年度）	1,150件
③ 放課後児童クラブ児童数 （子育て支援）	延べ 4,146人 （2017年度）	延べ 4,440人	延べ 4,020人	延べ 4,604人 （2024年度）	延べ 3,744人
④ 乳幼児健診未受診者の現状把握 （子育て支援）	未把握 0件 （2017年度）	未把握 0件	未把握 0件	未把握 0件 （2024年度）	未把握 0件
⑤ 少子化対策セミナー受講満足度 （子育て支援）	95.4% （2017年度）	95.0%	95.0%	未開催 （2024年度）	95.0%

※合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、一人の女性が一生の間に産む子どもの平均数

※すくサボ：銚子市こども家庭センターの愛称。保健師、助産師、看護師、保育士、社会福祉士などの専門職が妊娠期から子育て期に関する相談に対応し、情報を提供する場。窓口、電話相談、家庭訪問を実施。

成果指標と現状の分析
利用者数などの指標の値は、順調に推移している。学校給食費の無償化のほか、公立保育所と保護者の連絡手段のオンライン化、ファミリーサポートセンター事業、産後ケアの実施など子育てサービスの充実を図っているものの、出生数の減少が続いており、合計特殊出生率の改善が見込めない状況である。2025年度からは0歳児から2歳児の保育料を無償化するなど、今後も結婚・妊娠・出産・子育てを望む若い世代を支える取組を充実させる必要はあるが、これまでの子育て支援だけでは、少子化対策として十分に機能しない現状にある。他の施策分野と連動した総合的な取組が必要である。少子化対策セミナーは、受講者満足度が高かったものの、効果が表れるまでには時間を要すること、具体的な効果が見えづらいことなどの外部評価による意見を踏まえ、廃止している。

行政経営評価シート

事務事業名	母子保健オンライン相談体制整備関係経費	所管	保健事業室
-------	---------------------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-1相談体制の充実		
	関連計画	— : 総合戦略		
		○ : その他 (第3期銚子市子ども・子育て支援事業計画)		
	目的	妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制づくりとして、気軽に相談でき、適切なアドバイスが受けられ安心できる機会の充実を図る。		
	対象	妊婦及び就学前の子がいる保護者		
事業内容	株式会社kids publicが提供する「産婦人科オンライン・小児科オンライン」を令和7年3月から導入。スマートフォンを利用し、小児科医・産婦人科医・助産師へ毎日24時間相談可能としている。			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	666	247	123			124	

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	産婦人科オンライン利用数	目標値	—	—
		実績値	—	—
		達成率	—	—
	小児科オンライン利用数	目標値	—	—
		実績値	—	—
		達成率	—	—
	事業成果指標項目	目標値		
		実績値		
		達成率		
()				
()				
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
対象者には案内チラシを配布し、以後母子保健事業を通してさらに周知を図っている。本事業を理解し、必要な時に利用できるよう今後も適切に周知啓発を行う。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A:計画どおりに事業を進めることが適当	維持
	高い	やや高い	やや低い		

事業の課題と改善策	事業の課題	スマートフォンを利用し、気軽に相談可能であるものの、どの程度の相談が可能かわからない場合があるのではないかとされる。
	課題に対する改善策	対象者へ案内チラシの配布または周知をする際は、具体的に相談の流れやどのような相談が可能なのか合わせて説明し、本事業の理解や利用数の向上に努める。

行政経営評価シート

事務事業名	保育所におけるICT化推進経費	所管	子育て支援課
-------	-----------------	----	--------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-2保育環境の整備		
	関連計画	○ : 総合戦略		
		— : その他 (—)		
	目的	保育士の負担軽減と働きやすい環境を実現することにより、保育の質の向上を図るとともに、保護者と保育所双方の利便性を高める。		
	対象	公立保育所		
事業内容	保育業務支援システムの導入及びシステムを利用するための環境整備			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	355	322					322

事業の実績と成果	活動指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	保育業務支援システムの導入業務数		目標値	4業務	2業務
			実績値	14業務	5業務
			達成率	350%	250%
			目標値		
			実績値		
			達成率		
			目標値		
			実績値		
			達成率		
	事業成果指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	システム利用満足度 (最大ポイントを5ポイントとする)		目標値	3.5ポイント	2.5ポイント
			実績値	3.3ポイント	2.8ポイント
			達成率	94.3%	112%
	保護者連絡アプリ利用満足度 (最大ポイントを5ポイントとする)		目標値	3.5ポイント	2.5ポイント
実績値			4.4ポイント	3.9ポイント	
達成率			125.7%	156%	
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					
保育業務支援システムの導入及びシステムを利用するための環境整備したことで、保護者と保育所双方の利便性を高めることができた。					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	拡充
	高い	高い	高い		

事業の課題と改善策	事業の課題	
	システム導入により、業務負担軽減が図られ、働きやすい環境が整備されたことで、保育の質の向上と、保護者と保育所双方の利便性の向上を図ることができた。今後は、実装するサービスを負担と感じることがないように状況を見極めながら機能の追加を検討する必要がある。	
	課題に対する改善策	
保育所職員及び保護者に対し、使用感に関する意見を収集し、機能の追加改善を行う。		

行政経営評価シート

事務事業名	ファミリー・サポート・センター事業経費	所管	子育て支援課
-------	---------------------	----	--------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-4子どもの居場所づくり		
	関連計画	— : 総合戦略		
		○ : その他 (第2期子ども・子育て支援事業計画)		
	目的	ファミリーサポート事業を実施して、地域における育児の相互援助活動を推進するとともに、緊急時の預かり、ひとり親家庭の支援など多様なニーズへの対応を図る。		
	対象	市民		
事業内容	地域において子育て中の労働者や主婦等を会員として、援助を受けたい者と援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡、調整を行い、次の業務を行う。 ①会員の募集、登録その他の会員組織業務 ②相互援助活動の調整、把握 ③会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳			
			国庫支出金	県支出金	市債	その他
	4,180	3,858	1,286	1,286		1,286

事業の実績と成果	活動指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	ファミリー・サポート・センター会員数		目標値	130人	100人
			実績値	126人	118人
			達成率	96.9%	118%
			目標値		
			実績値		
			達成率		
	事業成果指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	年間利用件数 ()		目標値	70件	50件
			実績値	166件	54件
			達成率	237.1%	108%
	説明会の開催 ()		目標値	20回	15回
		実績値	28回	15回	
		達成率	140%	100%	
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い		
A: 計画どおりに事業を進めることが適当				維持	

事業の課題と改善策	事業の課題	会員数を増やし、ひとり親家庭の支援など多様なニーズに対応する必要がある。
	課題に対する改善策	引き続き広報やSNSなどを活用し周知を図り、会員数の拡大を図る。また、多様なニーズの把握に努めるとともに、相互援助活動の円滑な調整が図られるよう、事業の実施主体（委託先）である銚子市社会福祉協議会とも連携していく。

行政経営評価シート

事務事業名	学校給食費無償化経費	所管	学校給食センター
--------------	------------	-----------	----------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-5子育て世帯の経済的支援の充実
	関連計画	— : 総合戦略
		— : その他 (—)
	目的	小学校・中学校に在籍する第3子以降の児童・生徒の学校給食費を補助することにより、子どもの多い世帯の経済的負担を軽減する。
	対象	小学校・中学校に在籍する第3子以降の児童・生徒を扶養している保護者
事業内容	小学校・中学校に在籍する第3子以降の児童・生徒の学校給食費の全額を補助し、無償化とする。	

(単位: 千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	14,626	13,593		6,526		6,805	262

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
	第3子以降の小学校児童数	目標値	189人	190人	
		実績値	185人	190人	
		達成率	97.9%	100%	
	第3子以降の中学校生徒数	目標値	66人	60人	
		実績値	65人	56人	
		達成率	98.5%	93.3%	
			目標値		
			実績値		
			達成率		
事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度		
学校給食費補助金《小学校児童第3子以降分》 ()	目標値	9,817,000円	9,703,680円		
	実績値	9,434,600円	9,531,200円		
	達成率	96.1%	98.2%		
学校給食費補助金《中学校生徒第3子以降分》 ()	目標値	4,477,000円	3,674,880円		
	実績値	3,896,717円	3,300,803円		
	達成率	87.0%	89.8%		
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					
目標値を設定する際に、扶養されている高校生以上の第1子・第2子がいる場合や第3子以降であっても第1子・第2子が扶養されていない場合などを考慮しなかったため、目標値が実績値と大きく乖離した。					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持
	高い	高い	やや高い		

事業の課題と改善策	事業の課題
	第3子以降の児童・生徒を補助対象として認定するために、第1子から第3子まですべて扶養されていることが条件となることから、確認作業に時間を多く要した。
	課題に対する改善策
	申請の際は健康保険証の写しなどの添付を求めているが、不備が多く、今後は添付書類を太字で強調するなど、不備がなくなるよう周知方法を改善していく。

行政経営評価シート

事務事業名	ひとり親家庭等医療費等給付経費	所管	子育て支援課
-------	-----------------	----	--------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-6ひとり親家庭への自立支援
	関連計画	— : 総合戦略
		○ : その他 (第2期子ども・子育て支援事業計画)
	目的	ひとり親家庭の経済的負担を軽減し、福祉の増進を図る。
	対象	ひとり親家庭の父、母、児童（児童扶養手当の支給制限に該当する額以上の所得がある場合など、支給制限あり。）
事業内容	ひとり親家庭の父、母、児童が受けた医療費を助成する。令和3年11月から現物給付を開始した。	

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	24,270	24,210		12,089		12,121	

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
		医療費助成延回数	目標値	—	—
実績値			12,418回	12,285回	
達成率			—	—	
		目標値			
		実績値			
		達成率			
		目標値			
		実績値			
		達成率			
	事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
	()	目標値			
		実績値			
		達成率			
	()	目標値			
		実績値			
		達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載 ひとり親家庭の経済的負担の軽減が図られるとともに精神的不安も軽減され、生活の安定に寄与している。					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持

事業の課題と改善策	事業の課題
	医療費助成を継続していくためには、受給者が真に必要な治療を施す適正な医療機関を受診することが必要である。
	課題に対する改善策
	受給者に対して、より適正な医療機関への受診について理解を求めていく。

行政経営評価シート

事務事業名	産後ケア経費	所管	保健事業室
-------	--------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	1-(1)-7母子保健対策の推進
	関連計画	○ : 総合戦略
		○ : その他 (子ども・子育て支援事業計画)
	目的	妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の体制の1要素として、退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を実施し、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を図る。
	対象	本市に住所を有し、住民基本台帳に記録されている産婦 (出産後1年を経過しない女子をいう。) 及び乳児で、心理的ケア、保健指導、授乳指導その他の産後ケアを必要とする者
事業内容	短期入所型 (「宿泊型」…病院等に滞在しながら、産後ケアを受ける。) 及び居宅訪問型 (「訪問型」…助産師等が居宅に訪問した上で、産後ケアを受ける。) を実施	

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳			
			国庫支出金	県支出金	市債	その他
	1,281	1,280	582			698

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	産後ケア延べ利用者数 (宿泊型)	目標値	8人	8人
		実績値	29人	19人
		達成率	362.5%	237.5%
	産後ケア延べ利用者数 (訪問型)	目標値	10人	10人
		実績値	12人	7人
		達成率	120.0%	70.0%
		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
()		目標値		
		実績値		
		達成率		
()		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
委託先である医療機関や助産院等と利用者の状況等を常に連携しながら、事業の実施を行ったため、産後ケア利用者数が目標値よりも増え、産後ケアが必要な方に提供できた。今後は、委託先との連携はもちろんのこと、産後ケアの質の確保と向上について努力する。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	B: 事業の進め方の改善の検討	維持
	高い	やや高い	やや低い		

事業の課題と改善策	事業の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ①事業の周知はできているが、真に産後ケアが必要な方に利用できていないのではないかと思われる点 ②宿泊型、訪問型ともに利用できる医療機関等が少ない点 (今後は、市外、県外等の委託先も検討)
	課題に対する改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ①各委託先の医療機関に依頼 (制度案内チラシを利用した周知、産後ケアが必要となる者に対する利用促進など) するほか、妊娠届出時、妊娠期の面接、出産後の訪問時における制度説明を継続する。 ②医療機関等が少なく、委託先が確保できない等の対応として、市町村の区域を超えた広域的な調整を県が担うことが今後予定されている。本市も県と連携を図りながら、提供体制を減らすことなく、委託先の確保を図る。